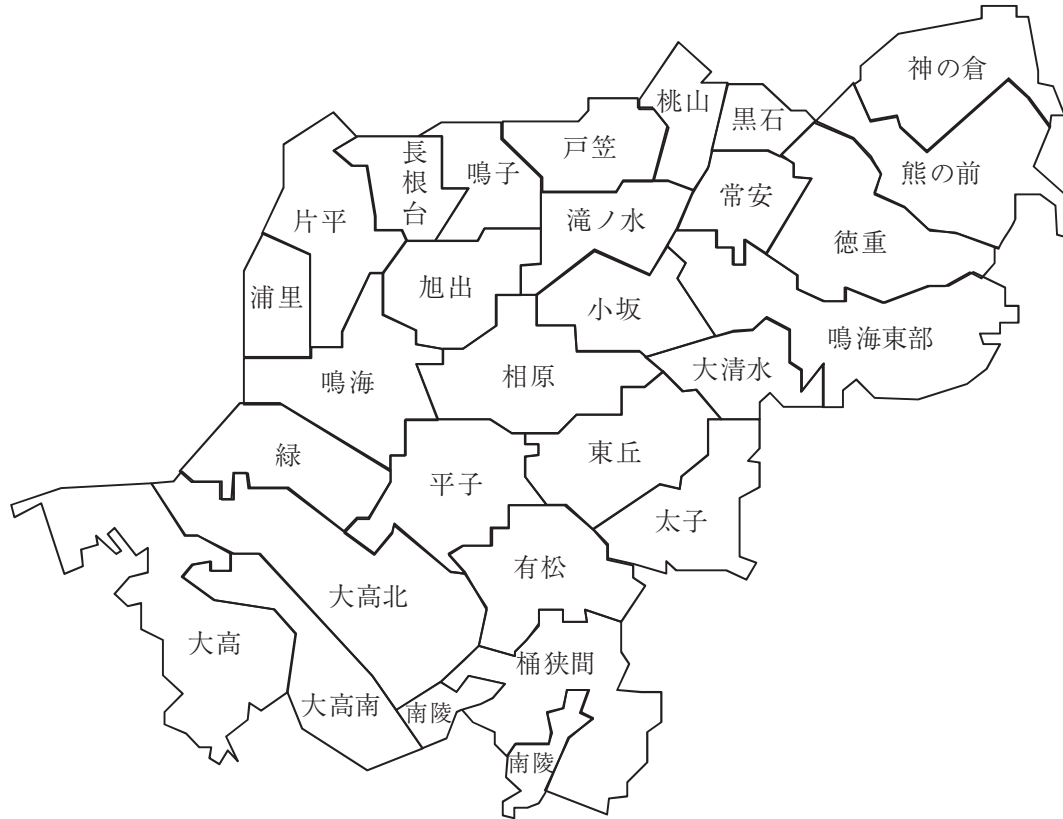


第4部

学区・学校のあらまし

第1章 学区の紹介

面積・世帯数・人口は、平成25年4月1日現在のものです。



学区（誕生年月日）

鳴 海（昭和38年4月1日）… P.296	神 の 倉（昭和50年4月1日）… P.303
相 原（昭和54年4月1日）… P.296	東 丘（昭和38年4月1日）… P.303
旭 出（昭和49年4月1日）… P.297	太 子（昭和48年4月1日）… P.304
滝 ノ 水（平成2年4月1日）… P.297	鳴 子（昭和38年4月1日）… P.304
片 平（昭和45年4月1日）… P.298	長 根 台（昭和50年4月1日）… P.305
浦 里（昭和49年4月1日）… P.298	戸 笠（昭和46年10月1日）… P.305
緑（昭和43年4月1日）… P.299	有 松（昭和39年12月1日）… P.306
平 子（昭和38年4月1日）… P.299	桶 狭 間（昭和51年4月1日）… P.306
鳴海東部（昭和38年4月1日）… P.300	南 陵（昭和56年4月1日）… P.307
小 坂（平成15年4月1日）… P.300	大 高（昭和39年12月1日）… P.307
常 安（平成10年4月1日）… P.301	大 高 南（昭和61年4月1日）… P.308
大 清 水（平成2年4月1日）… P.301	大 高 北（昭和56年4月1日）… P.308
徳 重（昭和63年4月1日）… P.302	黒 石（昭和49年4月1日）… P.309
熊 の 前（平成20年4月1日）… P.302	桃 山（昭和54年4月1日）… P.309

鳴海学区

面 積	1.671平方キロ
世帯数	4,745世帯
人 口	10,920人

東海道五十三次の宿場町としての歴史を持つ鳴海学区には、平成21（2009）年に復元された高札場を始め、旧東海道沿いを中心に寺社や史跡が点在しており、当時の情緒が残された趣のある町として発展してきました。

また、自主防災パトロール、高齢者ふれあい給食会や30年以上行われている自転車教室など、安心・安全で快適なまちづくりをめざした地域活動も活発に行われています。



緑区の交通の要所でもある鳴海駅周辺は、平成10（1998）年度より駅前整備事業が始まり、平成18（2006）年に名鉄本線高架、平成21（2009）年には南駅前広場が完成。駅直近の利便性を生かした都市型住宅の建設など、現在も緑区の活性化をめざした開発が進められています。



相原学区

面 積	1.096平方キロ
世帯数	2,971世帯
人 口	7,800人

相原学区は、緑区のほぼ中央に位置し、東西に流れる扇川の沿道は、四季を通して人々の朝夕の散歩道となっています。

夏には盆踊り、秋には運動会など学区の活動も盛んに行われています。また、細根公園では「アオシスの森」作りに地域住民が積極的に参加するなど地域交流も盛んな学区です。



北部に諏訪神社があり、細根天満宮とともに行われる秋祭りは多くの人々が訪れ、大変なにぎわいとなっています。また、市の福祉施設やスポーツ施設など集いの場となる施設が多いことに加え、国道302号線及び名古屋第二環状自動車道が開通するなど、今後もさらなる発展が期待されています。



旭出学区

面 積	1.148平方キロ
世帯数	3,608世帯
人 口	9,574人

旭出学区は、区内のほぼ中央に位置し、緑市民病院、図書館、緑高校などの公共施設が集まるとともに、新海池公園など緑に恵まれ起伏に富んだ景観を持つ落ち着いた印象の学区です。

各町内会・自治会による夜間防犯パトロール活動が盛んで、毎月の活動により犯罪発生を抑止しています。



また、地震の怖さを再認識するために、転倒実演用の家具転倒防止装置を手作りで作製するなど、独自の自主防災訓練に取り組むとともに、学区住民の輪を広げる交流行事として「あさひでふれあい祭り」を開催するなど、安心・安全で快適なまちをめざして、日々様々な活動に取り組んでいます。



滝ノ水学区

面 積	1.038平方キロ
世帯数	2,992世帯
人 口	8,441人

滝ノ水学区は、区内のほぼ中央に位置し、国道302号線及び名古屋第二環状自動車道に隣接しています。学区内を下る滝ノ水川周辺は、春になると桜の名所としても知られています。



また、住宅地の中に滝ノ水緑地や滝ノ水公園をはじめとした緑の多い公園が点在しており、主要道路沿いには商店が立ち並ぶ活気溢れる学区です。

学区内の公園の緑を大切にして、住みよい住宅地としての環境を育てる一方で、住民の防災意識を高め、災害に強いまち、犯罪を起こさせない・犯罪にあわないまち、安心・安全で快適なまちをめざして、日々様々な活動に取り組んでいます。



片平学区

面 積	1.424平方 ^{キロ}
世帯数	4,209世帯
人 口	10,466人

片平学区は、昭和45（1970）年に緑区で9番目の学区として誕生しました。区内の西北端に位置し、学区内には鉾ノ木貝塚、大塚古墳跡、赤塚古墳など貴重な史跡が数多く点在しています。千句塚公園には、松尾芭蕉が存命中に句を直筆で刻んで建てた碑「千鳥塚」があります。千鳥丘中学校の名称はこの千鳥に由来しています。



また神社・仏閣も多く、特に成海神社は広く緑区民に親しまれています。夏祭り、盆踊り、敬老会、ふれあい運動会などを通じ地域のコミュニケーションを図り、無縁社会から有縁社会へと、住みよいまちづくりをめざしています。

浦里学区

面 積	0.560平方 ^{キロ}
世帯数	2,197世帯
人 口	4,831人

浦里学区は、区内の西北に位置し、北と東は幹線道路に囲まれ、西は天白川を挟んで南区と隣接している地域です。

区画整理により、田畑が住宅地と工業地帯に生まれ変わり、昭和49（1974）年4月に学区が誕生しました。中高層の集合住宅と中小の工場が多く立ち並んでいるのが特徴です。



平成23（2011）年8月には、大規模災害の発生を想定し、より実践的な宿泊型防災訓練を緑区で初めて行い、地域防災力の向上に努めました。また、「片葉の葦」と呼ばれる一方向だけに葉がでるめずらしい葦があり、学区で大切に見守っていきたいと考えています。パソコン教室などを通じ地域のコミュニティづくりも活発に行われています。

緑学区

面 積	1.115平方 ^{キロ} メートル
世帯数	2,693世帯
人 口	6,739人

緑学区は、区内の南西部の天白川沿いに位置し、江戸時代初期には前ノ庵と云われる集落が商業の集積地として栄えていた歴史ある学区です。

学区のほぼ中心に位置する鳴海八幡宮は、江戸時代から鎮守の森として住民に親しまれており、毎年10月に開催される秋の大祭は、神輿の渡御行列と5輦の山車が曳き回され、



夜は提灯が点された山車が華麗で優雅な姿を見せてくれます。高齢独居者向けのふれあい給食会を平成2（1990）年6月の第1回開催以来、今日まで休むことなく続ける一方、安心・安全で快適なまちをめざして、日々様々な活動に取り組んでいます。

平子学区

面 積	1.161平方 ^{キロ} メートル
世帯数	3,336世帯
人 口	8,308人

平子学区は、東海道「鳴海宿」の東、四本木村が始まりとされています。地域には新旧の人々が暮らしていますが、各種の行事を通し、温かい心の絆が強い地域です。学区の特徴的な活動として、「平子みまもり隊」が、小学1年生の下校時に児童一人ひとりを自宅へ安全・



確実に送り届ける活動を実施しています。このほか防犯・防災に強い地域づくりのため、「平子防犯パトロール（青パト専用車導入）」「平子防災無線設置」に取り組み、住民が



助け合い・支え合い・励まし合う良き伝統を大切にしています。また「平子ふれあい広場」では、PTA主催の「平子餅つき大会」を平成21（2009）年度から学区全体の行事として発展させ、平子小学校の協力を得て、子どもから高齢者まで楽しめる行事を行い、地域友好の拡大を図っています。

鳴海東部学区

面 積	2.858平方 ^{キロ} メートル
世帯数	3,789世帯
人 口	10,032人

鳴海東部学区は、緑区が誕生した時から名前を連ねる数少ない学区の一つです。当時は、山林がほとんどを占めたこの地域は、区画整理により宅地化が進められ、昭和40年代以降の人口の急増に伴い、現在に至るまでたくさんの学区が分離し独立しました。

学区の住民の憩いの場であり、各種活動の拠点となるコミュニティセンターが、他の学区に先がけて昭和59（1984）年に開館しました。

平成16（2004）年より年に2回の学区全域一斉清掃活動を実施するほか、平成18（2006）年からは児童の下校時見守り活動を行い、子どもたちの安全を守るなど、住みよいまちづくりに対する意識の高揚と近隣住民同士の交流にも力を入れている学区です。



小坂学区

面 積	1.002平方 ^{キロ} メートル
世帯数	2,731世帯
人 口	7,983人

小坂学区は、平成15（2003）年4月に誕生した緑区のほぼ中央に位置する新しい学区です。

中央部を名古屋第二環状自動車道が縦断しており、交通の便にも恵まれた住宅地です。戸建て住宅、マンションなどの建設が進められており、人口は約8,000人で、学区発足当時から1,200人ほど増加しています。



とりわけ若年層、子どもの増加が著しく、活気ある街です。学区発足以来、盆踊り大会・ふれあい運動会・敬老会などの地域行事を積極的に実施することによって、地域住民の「絆」を深めるとともに、消防団活動・防災訓練などを通して地域の安全性を向上させ「心の豊かさとふれあいのある街をめざして」活動しています。



常安学区

面 積	0.624平方キロ
世帯数	2,021世帯
人 口	5,265人

常安学区の「常安」は、地域に古くから残る「乗鞍」という地名の韻を残し「常にやすらぎを抱き、うるおいのある学区に」という願いを込め命名されました。

学区の西に国道302号線と名古屋第二環状自動車道が開通。東には大型商業施設が開店し地下鉄桜通線野並徳重間が開業するなど、発展に合わせて住民の生活も大きく変わりつつあります。しかし変わらないものもあります。それは「ふれあいと絆を重んじる心」です。毎年小学校で開催される「学区ふれあい運動会」は、小学校と地域が協働で作りあげ、子どもから大人まで広く住民に親しまれており、この想いは、防犯・交通安全などのまちづくり活動に熱心に取り組む原動力となっています。



大清水学区

面 積	1.202平方キロ
世帯数	3,872世帯
人 口	11,069人

大清水学区は、区内東部の丘陵地に位置し、平成2（1990）年の設立以来、区画整理事業の進展に伴い、人口・世帯数が急増しました。

長年防災力の強化に取り組んでおり、年に2回の防災訓練・防災講習会の開催、万が一の災害時に備え、発電機や投光器、炊飯器などの機材や備蓄品の充実を図るなど、住民の防災意識の向上に努めています。



また、住民の交流も盛んに行われており、毎年2,500人以上が参加する盆踊り大会や、日頃から地域内のコミュニケーションを深める「ふれあい会」の開催、町美・緑化活動の一環である31箇所の「ふれあいます花壇」の設置など、住民同士の協力や助け合いを大切にしています。

徳重学区

面 積	1.971平方 ^{キロ}
世帯数	2,245世帯
人 口	6,108人

緑区の北東部に位置する徳重学区は、昭和63（1988）年に鳴海東部学区より分離し誕生しました。昭和51（1976）年から区画整理事業が始まり、現在ではしゃれた店舗が数多く立ち並ぶ住宅地です。支所を始め地区会館・図書館・保健所分室・商業サービス施設を含む総合複合施設「ユメリア徳重」の完成と平成22（2010）年5月の徳重支所開設。平成23（2011）年3月には地下鉄桜通線野並徳重間が開業するなど、「新しく便利なまち」としてめまぐるしく変化を遂げる一方、地域では積極的に防犯や交通安全運動が推進されています。また、町美運動推進委員会を中心とした街路樹植えマスへの花植え活動によって彩られたフラワーロードは約6^{キロ}にも伸び、花で溢れる美しいまちづくりをめざしています。



熊の前学区

面 積	1.424平方 ^{キロ}
世帯数	3,859世帯
人 口	11,282人

熊の前学区は、緑区28番目の学区として平成20（2008）年4月に誕生した最も新しい学区です。緑区東部地域の人口増加に伴い、神の倉学区と徳重学区から分離し、統合しているため、両学区の間に位置しています。緑豊かでなだらかな丘陵地にあり、学区の大半が住宅地です。人口構成も若い世代が多く、その意味でも若い学区といえます。扇川桜並木ウォーキングから始まり、長寿を祝う会や自主防災訓練、自治会対抗ソフトボール大会、学区グランドゴルフ大会、秋の学区運動会などの活動を学区内にある4つの自治会や子ども会ほか各種団体の積極的な参加で、毎回盛り上がりを見せています。学区誕生から5年が経過しました。これを基礎として、学区の住民が安心・安全で快適な暮らしができ、地域の絆を深めていくための取り組みを進めています。



神の倉学区

面 積	1,321平方 ^{キロ} メートル
世帯数	2,959世帯
人 口	8,285人

神の倉学区は、区の最北東部に位置し、天白区・日進市・東郷町と隣接しています。なだらかな丘陵地帯にあり、高層住宅が少ない閑静な住宅街です。スポーツや文化活動を通じての世代間交流が盛んで、学区連絡協議会連合運動会や学区内自治会チームによる春秋ソフトボール大会、小学生に「昔の道具の使い方と生活」を教える高齢者と子どもの交流、敬老会での幼稚園児や小学生との交歓会などで交流を深め、強い絆で結ばれた学区をめざしています。



また、花と緑が豊かなことも特徴の一つです。ボランティアによる手入れにより、公園や街路樹花壇は四季折々の花々が咲き、道行く人の目を楽しませています。各家庭の緑化意識も高く、家の前や庭、垣根を花や樹木で飾るなど、まち全体の美化に貢献しています。



東丘学区

面 積	1,206平方 ^{キロ} メートル
世帯数	4,091世帯
人 口	10,533人

東丘学区は、なだらかな丘陵地域にあって、緑の多い自然と共存する住宅地区です。

学区内には、由緒ある天満社と天満宮があり、住民に親しまれています。また、その天満宮の隣には細根公園があり、土木事務所と協力して、ボランティア活動により整備の行き届いた公園をめざしています。



また、学区運動会を開始し学区の統一感を確実に高め、名鉄有松駅周辺での自転車のツーロック運動や安心・安全パトロール隊によるパトロールを行うなど、防犯にも力を入れており、「犯罪に強いまちづくり」活動を幅広く展開しています。

太子学区

面 積	0.995平方キロ
世帯数	3,275世帯
人 口	7,869人

太子学区は、豊明市と隣接する起伏に富んだ丘陵地にあり、閑静な住宅街を形成しています。

この地域はかつて「太子ヶ根」と呼ばれていましたが、桶狭間の戦いで、ここに集結した織田軍が今川軍に向かって一気に駆け下り、勝利して天下統一への足掛かりをつかんだことから、大将の織田信長にあやかって「大将ヶ根」と呼ぶようになったと伝えられています。



北東から南西へ、学区を分断するように愛知用水が走っていますが、今はその上が公園として整備され、ウォーキング、犬の散歩など地域住民の憩いの場となっています。その他、着工して20年を経て完成したばかりの市道境松線に、今後の地域の発展の期待が寄せられています。

鳴子学区

面 積	0.729平方キロ
世帯数	3,069世帯
人 口	7,125人

鳴子学区は、区北部の丘陵地に位置し、鳴子団地を始めとする団地型の中層集合住宅を主体とした学区です。

学区では、住民自らが参加して、いざというときに備える「自主防災訓練」を行っており、東日本大震災などの大災害の報道を受けて、参加する住民も増加しています。

また、「ふるさと祭り」と題した、学区主催の納涼夏祭りを開催しており、子どもから大人まで世代を問わず幅広く住民の好評を得ています。



このような住民の交流を深めるイベントの開催や交通安全・防犯活動や高齢者への配慮など、あたたかみのある町をつくっていきたいと願っています。

長根台学区

面 積	0.747平方キロ
世帯数	3,182世帯
人 口	7,980人

長根台学区は、区の北西部に位置し、学区に隣接して野並駅があるため、区の北玄関口としての役割を果たしています。

春には桜の名所として知られている四郎曾池公園があり、住民の憩いの場として親しまれています。学区では、地下鉄桜通線の延伸による犯罪の増加を懸念して、長根台学区安



心・安全パトロール隊を結成し、青色回転灯車による防犯パトロールを実施しています。一方、学区住民の交流の場として、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加を得て、学区最大の行事である学区運動会を開催しています。今後は、さらなる地域活性化のため、学区全体での挨拶運動や、声かけ運動を実施して、絆を深めていきます。

戸笠学区

面 積	1.219平方キロ
世帯数	3,318世帯
人 口	8,347人

戸笠学区は、緑区東北部の丘陵地帯に住宅地として開発され、昭和46（1971）年10月に誕生した学区です。

平成23（2011）年3月の地下鉄6号線延伸に伴い、学区内に相生山駅が新設され、さらに発展が期待されています。

学区内の螺貝公園では、春になると螺貝池の周りの桜並木がすばらしい景観をなし「桜まつり」は学区民の大きな楽しみになっています。この池の葦原には珍しい野鳥が多く飛



来し、愛好家を始め多くの市民の目を楽しませています。地域活動では、青色パトロール隊を結成し、毎日学区内を巡回するとともに、各家庭を訪問し補助錠の取り付けを啓蒙するなど防犯意識向上に努め、犯罪のない街づくりをめざしています。



有松学区

面 積	1,478平方キロ
世帯数	4,141世帯
人 口	11,188人

有松絞りで全国に知られる有松学区は、南部は住宅が立ち並ぶ閑静な地域となっており、北部は旧東海道沿いを中心に卯建を設けた和瓦の屋根、塗籠造、虫籠窓といった特徴を持つ伝統的建築物が町並みを形成しており、名古屋市の「町並み保存地区」第1号の指定を受けています。



毎年6月には「絞りまつり」が、10月には「山車まつり（天満社秋季大祭）」が開催され、3輦の山車が旧東海道を曳きまわされます。また、老人クラブを中心とした定期的な地域清掃活動、緑区で最初に青色パトロール車を導入した防犯活動などの地域活動が活発に行われ、歴史的環境を保全しながら、安心・安全で暮らしやすいまちづくりが推進されています。

桶狭間学区

面 積	2,052平方キロ
世帯数	4,114世帯
人 口	11,323人

桶狭間古戦場公園に建立されている「信長・義元2体の銅像」を見学するため、日本全国から大勢の歴史愛好家が訪れています。



桶狭間学区では、区画整理事業により地形や風景が変わり、「戦い」当時の面影は減少しましたが、古戦場にまつわる地名は残され、史跡や伝承は大切に保存されています。



人口が急増し、新旧住民の融和と親睦を促進するために、多くの住民が参加できる「歴史を活かしたまちづくり」を軸として、さまざまな行事が実施されるようになりました。桶狭間古戦場まつり、盆踊り大会、敬老会、秋祭り、自主防災訓練、もちつき大会などは、老若男女の触れ合いの場となっています。住民有志による青色パトロール車や子ども見守り隊による防犯活動も、活発に行われています。

南陵学区

面 積	0.821平方 ^{キロ}
世帯数	1,778世帯
人 口	4,193人

南陵学区は、区の南部に位置し、市営桶狭間荘を中心としたエリア、戸建てを中心としたエリア、工業地帯を形成するエリアにより、形成されています。



学区では、毎年6月及び10月の第一日曜日に、一斉草刈りや清掃に取り組む「町を美しくする運動」や、毎日児童生徒の登下校時の道路横断指導を行う「子ども見守り隊」活動に、学区民を挙げて取り組んでいます。

さらに、桶狭間荘第一集会室を会場とし、毎月最終の金曜日に開催している学区講習会「ふれあい広場」は、毎回住民の好評を博しています。



大高学区

面 積	3.354平方 ^{キロ}
世帯数	4,062世帯
人 口	10,207人

大高学区は、緑区で一番海に近い町です。木曾・飛騨川が育てた伊勢湾の恵みが、古代神話の里から中世戦国城下町、近世海の干拓、酒造りの町へと千数百年間、私どもに豊かさをもたらしています。町を歩いてみると、酒蔵や遠く木曾川中流から舟で運ばれた丸石（濃飛流紋岩）を使った屋敷廻り、また大高川のファブリダムからの取水で今も続く緑区唯一の水田（稲作）もこの町の歴史に深みをあたえています。今、学区では大高資料館の整備を進めています。



大高小学校に保管されていた明治期以降の貴重な教科書を核に、この町の多彩な歴史民俗資料を収集展示し、隣接する小・中学校等の地域学習を支え、老いも若きも一緒になってふれあいを深め、地域力を高める活動の拠点とします。これは別の言葉で言えば「脱無縁社会」宣言でもあります。



大高南学区

面 積	1.448平方キロ
世帯数	2,811世帯
人 口	7,116人

創設当時は緑区で最も小さな学区であった大高南学区は、平成18(2006)年に学区域の変更があり、その多くを占める区画整理地内には大型ショッピングセンター、J R南大高駅、総合病院などが開業し、戸建住宅やマンションの建設もすすみ、緑区内で最も人口の増加が著しい学区の一つです。

また、自治会・町内会によるコミュニティの活性化を目的としたレクリエーション活動や高齢者世帯へのサポート事業、学区連絡協議会を中心とした地域の教育力を生かした子ども健全育成大会の開催、住みよいまちづくりのための防犯・防災活動の実施、および住民同士をつなぐネットワークとコミュニティづくりを学ぶ場として「まちづくりセミナー」などを開催し、学区独自に研修の場を設けるなどの先進的な取り組みにも積極的な学区です。



大高北学区

面 積	2.671平方キロ
世帯数	2,663世帯
人 口	6,788人

大高北学区は、区の南西部に位置し、全体的に丘陵地にあります。学区内には、市内でも最大級の大高緑地があり、春には桜、秋には紅葉の名所として、また、遊具、野球場、デイキャンプ場などを備え、週末には多くの方でにぎわっています。

また、歴史と伝統を愛する学区として、歴史的に名高い丸根砦跡・鷲津砦跡などの史跡の保存に力を入れるとともに、年に3～4回、全住民を対象にふれあいウォーキングを実施し、地域の連携と育成に努めています。

さらに、災害に強い学区をめざして、安心・安全で快適なまちづくり活動に積極的に取り組んでいます。



黒石学区

面 積	0.586平方 ^{キロ}
世帯数	1,951世帯
人 口	4,995人

黒石学区は、緑区の東北部に位置し、区内では平成25（2013）年4月1日現在、面積で2番目、人口で3番目に小さい学区です。平成22（2010）年に隣

接する学区に、「ユメリア徳重」や大型商業施設が建設されるとともに、その翌年には、名古屋第二環状自動車道や国道302号線の開通。さらに、地下鉄桜通線が徳重まで延伸されたことにより、住みよく交通の便の良いまちへと発展しています。



学区では、コミセン祭りや夏祭りなどのふれあい行事を通じて学区民の絆を深めるとともに、学区内パトロールや防災訓練などの防犯、防災活動を活発に行い、ふれあいのある、安心・安全で快適なまちをめざしています。



桃山学区

面 積	0.919平方 ^{キロ}
世帯数	3,732世帯
人 口	9,712人

桃山学区は、天白区との区境にあり、起伏の多い丘陵地に閑静な住宅街を形成しています。桃山自然の森（桃山市民緑地）では、深い森の木々の中で、鳥の声を聴きながら森林浴も楽しめます。

学区の中心部にそびえ立つ、白い鳴海配水塔は、夜にはライトアップされ、地域のシンボルとして住民に愛されています。また、盆踊りや運動会などの行事では、住民が参加し



やすい雰囲気を作るとともに、ふれあい給食会などを開催し、ふれあいを大切にしています。交通も地下鉄桜通線の「神沢駅」が開業し便利になり、ますます発展が期待されています。今後も、地域の皆さまと一緒にまちづくりに取り組んでいきます。

